

西日本インカレ（合同研究会）2015 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）リュウコクダ イカレ	フリガナ）ケイザイガク	フリガナ）マキ ダイゼミ
龍谷大学	経済学部	牧 大樹ゼミ

※申込書に記入したチーム名から変更する場合は、新旧両方の名称を記入してください。

※企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）	フリガナ）	5
チーム T	谷口氏	

研究テーマ（発表タイトル）
和食のこれから

※必ずく企画シート作成上の注意を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

無形文化遺産登録された和食は、海外で大きなブームとなっている。一方の我が国では、日常で和食を意識することが少なくなり、手軽に食べられるパンやファーストフードに関心が流れている。和食を今後どのように伝えるべきかを考える。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

目的にも挙げたとおり、和食の定義、根幹が揺らぎつつある。実際、日本文化の発信地である京都は、47 都道府県中のパン消費量が最も多いという現状がある。また、和食には日本に古くから根付く風習や文化も反映されている。その意味を深く実感しながら味わう人は何人いるだろうか。海外に輸出する前に我々がその意味を再考しなければならない。

3. 研究テーマの課題

海外で和食が受け入れられるのは非常に喜ばしいことである。だが、和食の受け入れられ方には日本人の想像していない点が多々見受けられる。珍妙な具、例えばアボガドを使った寿司などはその典型だ。さらに、日本の食材は海外に流通しにくい。ビジネスの好機を失っているのも同時に問題視される。また文化や風土、職人の理解度にも不安が見られる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

現在、海外で和食の理解を広げる活動として料理人の腕を向上させる策や、博覧会で和食を PR するなどの活動が図られている。一方、国内で和食を再考する取り組みとしては和食を専攻する学部の開設や、食育が挙げられる。これら既存の取組の他に、大学生レベルでも可能な取組を紹介する。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

チーム員の身近に対してアンケートを実施。

6. 結果や今後の取り組み

関心がなければ学ぼうとすることも有り得ない。日本人が和食について深く学習するためには、和食に興味を持たせる取組を自治体などを介して設定し、次の世代に引き継ぐことが大切だ。

また、海外に和食を伝えるためには、その形態は少し変えざるをえない。進化することが受け入れられるための手段となりうる。

7. 参考文献

クローズアップ現代 人気の和食 ブランド新戦略！ ～世界に市場どう広げる～ 7月14日閲覧

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までを渡します。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「西日本インカレ事務局への連絡事項」に記入してください。なお、本企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。